

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601205
法人名	株式会社 さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑式番館 (ユニット名 1階)
所在地	福岡県久留米市江戸屋敷1丁目11番1号
自己評価作成日	平成30年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、久留米市内でも高齢化、特に高齢者単独世帯が多い地域に平成28年11月に開設し、地域の中の認知症を患われてしまった方々の住む「家」として事業を行っている。ご利用者が地域に暮らす一人ひとりの住民として暮らしていけるように支援しており、日頃の散歩・地域の夏祭りに参加している。ご利用者様の認知症の状況・身体の状況は其々でも、互いが互いを必要とし同じ「いえ」に住む疑似家族として生活を支援しており、数名のドクター及び訪問看護ステーションとの連携により、ターミナル支援・お看取り支援を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	平成30年9月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の介護理念は、法人の理念であり、この理念が実践できるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体への加入、校区夏祭りへの参加等、地域との付き合いは行ってはいるものの、今後益々「地域の一員として」交流を深めていきたい		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター開催の認知症サポーター養成講座で講師を務めるとともに、他の事業所と共に地域課題の掘り出し、地域に対して何ができるのかを模索している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所の運営推進会議には、市職員・包括職員は勿論、他の小規模多機能事業所・薬剤師にも入っていただき、各方面からの屈託のない意見を頂戴しサービスの向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当法人の代表者が久留米介護福祉サービス事業者協議会の理事長を仰せつかっており、グループホームに限らず、久留米市内の事業所の実情、行政としての指導等、協力関係を築けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関、フロアの鍵は施錠しておらず夜間帯のみ施錠している。フロア入り口にはセンサーを設置しフロアからでられるご利用者を引き止めず一緒に同行している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度虐待に対する事業所内での研修を行い虐待防止のため各フロアごとに虐待防止委員会を作り、案を出し虐待を防ぐ取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を苑内で開き学んでいる。ご家族への説明は行っており現在おひとりの方が成年後見制度を利用しご入居いただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、十分な説明を行い納得の上、サービスの利用が開始されるよう努めている。サービスの利用開始時に於いても、気兼ねなく相談いただけるよう声かえを行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず声をかけご家族との信頼関係を築き、意見や要望を言いやすい関係を作っている。家族会資料には市役所介護保険課、国保連の電話番号を記載し、ご家族が意見や要望を外部へ発信いただけるよう努めている		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者が集まり運営会議を定期的に行っており、職員の意見を運営に反映できるよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系・職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め、各職員がやりがい・向上心が持てるよう配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては性別・年齢を理由に採否を決定することはない。しかし、高齢者・認知症・介護に対する考え方によっては、採否を決定している		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に勉強会、外部の研修など参加し研修後は他スタッフへ報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会のグループホーム部会が行う研修及び法人内研修には多くの職員が参加し日々トレーニングを行い、職員それぞれが自己の向上に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会の総会・ボーリング大会及びその他の研修会、運営推進会議・包括との地域ケア会議などを通じ、地域の他の事業所との交流に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から情報収集を行い、ご本人に合った方法を考え、安心して過ごせるよう努めている、また困っている事や不安・要望に耳を傾け安心できる環境づくりに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問し、家族や本人の思い、困っていることや不安などお聞きすることで良好な関係づくり、安心して頂けるように努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のできる事、出来ない事、家族側の要望などを正確に把握し施設内の出来事など視野に入れて具体的な支援につなげるようにしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事はご自分でしていただき食事の準備や洗濯物たたみなどの家事を中心に主体的に動けるように共に行っている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、居室にて大切な時間を過ごしていただけるように飲み物を提供し、日頃の様子を報告したり情報交換を密にしご家族と一緒に支えて行けるように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にはいつでも面会、外出、外泊などできる事を伝えている。また、居室にはご家族との写真などをかざり安心できる環境作りをしている		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席の配置は気が合う、合わないなどがある為十分に配慮している。トラブルが起こった時はスタッフが間に入り声をかけるようにしている。居室にこもりがちな方には声かけをし、レクなどへの参加を促している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了後も、年賀状のやり取りなど関係を断ち切らないようしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にご本人・ご家族の意向をたずね、また、日頃のコミュニケーションの中から希望や意向を把握し月1回のミーティングでもその都度スタッフの意見交換や報告をし検討している		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族にこれまでの生活歴を書いて頂いたり、入居前に面会に行きご本人やご家族からお話を聞き把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子は介護記録に記入し、スタッフ全員で把握するようにしている。また、特変があったり、薬の変更、体調の変化などあった場合は申し送りノート、個別ノートに記入している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意向、ご本人とのコミュニケーションの中から現状を把握し月1回のミーティングでスタッフで情報を共有し、意見を出し合いながら介護計画を作成している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には日々の様子を詳細に記載し、受診や往診の結果、体調の変化、薬の変更などは個別ノートに記載し職員で共有し介護計画にも反映している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の状況に応じて、主治医の指示にて訪問看護を利用したり、個別に希望の方にはマッサージなども導入し柔軟な支援を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や手品などボランティアの方に来て頂いたり、地域の夏祭りに参加させて頂くなど豊かな生活を楽しまれるよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居前からのつながりや、ご本人やご家族に選んでいただき受診や往診にて対応している。希望があれば主治医の変更も一緒に検討している		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師でもある為、目に見える変化だけではなく動作や表情など違和感を感じた場合は報告、相談をしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にスタッフも面会に行くことでご利用者に安心していただいたり病院側との情報交換に努め、退院時の受け入れもスムーズにできるように努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでできる事できない事を明確にし、ご家族への説明やご利用者の希望を伺い、それぞれの状態にあった方法をご家族や医師と相談して決めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成されており見やすい所に置かれている。スタッフの対応の統一を図るように努力している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間想定を含む防災訓練を行っている。実施には消防署への報告も行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬いの気持ちを持って接し、自尊心を大切にしている。トイレ介助、居室でのパット交換時等はプライバシーに配慮した声かけや対応をしている		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご本人が分かりやすい言葉を使い、自己決定ができるように支援している。またおやつなど複数の種類がある時はご本人に選んでもらうなどしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク活動など無理強いしないようにし、ご本人のペースに合わせた活動ができるように支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や外出支援時、季節や気候に合わせて、ご本人が所持されている物で身だしなみができるように支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の生活歴を尊重し栄養バランスや嗜好を考え美味しい食事を提供している。また、自立支援のためにも準備から片付けまで身体の状態に応じてスタッフと一緒にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取状況など他スタッフと情報を共有しながら安全な食事を提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人様の状態に応じた口腔ケアの支援を行っている。必要時には歯科への受診、往診を行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表にて一人ひとりの排泄の時間・間隔を確認しトイレ誘導・介助を行い、失禁やオムツ使用量が減らせるよう支援を行っている		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による食欲不振、不穏状態などを避けるために水分量を1日1500CCを目標とし摂って頂いている。チェックシートにて排便の有無をチェックし、便秘の方には医師や看護師の指示の下下剤の服用をして頂いている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状の人員配置ではご本人の希望やタイミングでの入浴は難しいが定期的に入浴を行い清潔を保っている。また、入浴時好みの温度にそれぞれ調整している		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人からの休息の希望時や体調不良時は休んでいただいている。温度の調整に配慮し、タオルケットや毛布を使い気持ちよく休んでいただけるように支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ノート、個人用ファイルにて、薬の用量、副作用、薬の変更などを把握し、確認できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の喜びのある生活の為に、日中出来る趣味やの支援を行っています。楽しみや気分転換の為に利用者としてレクや散歩を行っている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある場合、その日の天候や気温、職員の勤務人数を見て対応している。ご家族と一緒に外出、外食される利用者も多い		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しており、ご利用者が財布や現金を持ちたいと希望があればご家族の承諾の上で対応している。買いたい物がある場合はご家族の許可を得た上でスタッフと一緒に買い物に出かけている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在のところ、ご本人から希望はないものの、ご家族から電話があり、お話をしたいと希望がある場合は取り継いでいる		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には危険になるようなものは置かず、快適に過ごせるよう室温の調整やテレビの音量、機の配置などに気を付けている。また、ご利用者やスタッフの写真や季節毎にご利用者が作成した貼り絵を飾り和やかで安らげる空間づくりが出来ている		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の性格や運動機能などを考慮し、席の配置を決めている。テレビが好きな方には見やすい席に案内し、気が合う入居者がおられれば近くに座って楽しく会話ができるよう配慮している。ご利用者同士がトラブルを起こされない様、席の配置には十分配慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用されていた家具や仏壇など馴染の物を置いていただき、また、家族で撮られた写真やご自分で色を塗られたカレンダーを飾るなどして安心して居心地のいい環境作りを支援している		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者一人ひとりの身体機能や認知機能を把握し、できる事はご自分でしていただくよう声掛けや見守りなどの支援を行っている		